

都市再生整備計画 事後評価シート
長野駅周辺地区

平成23年2月

長野県長野市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県	市町村名	長野市	地区名	長野駅周辺地区		面積	90.7ha
交付期間	平成18年度～22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	5,764.9百万円	国費率	0.4	

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名					
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間形成施設(ユメリア通り)、土地区画整理事業(長野駅周辺第二地区)					
		提案事業	地域創造支援事業(不良土壌改善事業、ゴミステーション整備)					
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設(せせらぎ歩道)		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		提案事業	まちづくり活動推進事業(まちづくりアドバイザー派遣制度、長野駅東口まちづくり活動推進)		事業項目の適正化(関連事業へ移行)		影響なし	
交付期間の変更	当初	平成18年度～22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-			

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	新規住宅着工件数	件	0	H17	110	H22	72	120	○	ありなし	街路や高質空間の整備が奏功し、地区の利便性及び居住環境が向上した。	平成23年4月
指標2	地区内商店街歩行者数	人/日	3,197	H17	3,100	H22	3,420	2,872	△	ありなし●	魅力ある商店街づくりと歩行者優先道路の整備により、歩行者の減少が緩和された。	平成23年7月
指標3	消防・災害車両活動可能地域率	%	34	H17	65	H22	45	53	△	ありなし●	生活道路の整備を優先した結果、事業効果が評価値に十分反映されなかった。	平成23年4月

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	消火活動困難住宅の減少	件	427	H17	/						家屋の移転や街区整備の実施により、安全・安心な都市基盤整備が促進された。	平成23年4月
その他の数値指標2					/							
その他の数値指標3					/							

4) 定性的な効果発現状況

- ・本計画の実施を通して、まちづくりに対する意識が高揚し、住民と行政の協働によるまちづくり活動が積極的に行われるようになった。
- ・長野駅東口まちづくり対策連絡協議会内にテーマごとの研究部会が設立されるなど、まちづくりへの機運が高まってきた。
- ・利用されていない危険な住宅が解体されるなど、まちの安全性が高まるとともに、居住環境が著しく改善した。
- ・従前は入り組んだ狭小道路や袋小路が多く、道に迷っている人や車両を多く見かけたが、計画的な道路整備により、市民からの苦情が大幅に減少した。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	実施内容	実施状況	実施状況	実施状況	
5) 実施過程の評価	モニタリング	所定のモニタリングシートによるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	計画期間終了後においても、モニタリングの手法を用いて定期的に継続事業の進捗状況を確認する。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
5) 実施過程の評価	住民参加プロセス	長野駅東口まちづくり対策連絡協議会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	検討・協議した内容を具現化するための体制づくりに着手する。(具体的な活動は住民主体で実施し、市は後方支援を行う。)
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
5) 実施過程の評価	持続的なまちづくり体制の構築	長野駅東口まちづくり対策連絡協議会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	より多くの住民の意見を反映させ、実施可能な活動計画を作成する。(具体的な活動は住民主体で実施し、市は後方支援を行う。)
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2-2 地区の概要

長野駅周辺地区(長野県長野市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
機能性・利便性の高い都市拠点整備、水と緑あふれる都市景観整備により都市の顔となるまちづくりを目指す。 ① 土地区画整理事業による安全・快適な都市基盤整備と土地利用の高度化 ② 魅力あふれる商店街の整備と豊かな水・緑空間を活かした歩行者空間の整備による中心市街地の活性化 ③ 住民との協働によるまちづくりの推進	新規住宅着工件数	単位:件	0	H17	110	H22	120	H22
	地区内商店街歩行者数	単位:人/日	3,197	H17	3,100	H22	2,872	H22
	消防・災害車両活動可能地域率	単位:%	34	H17	65	H22	53	H22

○関連事業
長野駅東西自由通路整備

○関連事業
従前居住者住宅建設

□提案事業
不良土壌改善事業

■基幹事業
高質空間形成施設
「ユメリア通り
北中商店街再生」

■基幹事業
高質空間形成施設
「計湯川整備」L=160m

■基幹事業
高質空間形成施設
「野外彫刻ながの」

□提案事業
「送電線地中化事業」

■基幹事業
土地区画整理事業
「長野駅周辺第二」A=58.2ha
区画道路 L= 3800m

□提案事業
「不良土壌改善事業」
「ゴミステーション整備」
「送電線地中化事業」

○関連事業
土地区画整理事業
「街路築造」
公共下水道事業
「雨水渠」
従前居住者用住宅建設事業
東西自由通路整備事業
まちづくりアドバイザー派遣制度

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業による道路整備が順調に進捗したことにより、狭小道路が減少し、まちの快適性、安全性が大きく向上した。 土地区画整理事業の移転対象となっている木造住宅のうち、約6割について移転補償契約が締結された。 大規模なマンション等が建設された結果、若年層の定住が促進され、世代間のバランスが改善した。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業を推進することにより、機能的で快適な都市機能集積を図るとともに、土地利用の高度化を誘導する。 住民主体のまちづくり活動を支援する。(具体的な活動は住民主体で実施し、市は後方支援を行う。) 地域住民のやすらぎと憩いの場となる空間を創出する。 街区公園等公共空間の整備により、来街者及び地域住民との交流を促進する。 老朽密集住宅等の解消が遅れている区域については、大規模災害に耐え得る有効な水利として、耐震性貯水槽の設置を促進する。